

コミュニティ・スクールだより

南関町教育委員会教育課



学校運営協議会を設置している学校を「コミュニティ・スクール」といいます。各小中学校に学校運営協議会が設置され4年目を迎え、本年度は地域学校協働活動等との一体的推進を図るため、それぞれに共通した部会を設置しました。それぞれの部員の半数以上は両方の部会に所属しており、南関町学校運営協議会全体会で熟議された課題やその課題解決に必要な取組をそのまま地域学校協働活動運営委員会に引き継ぎ、具体的にどう取り組むかを熟議しその取組を実践することを目的としました。

南関町のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進



本年度の「第1回南関町学校運営協議会全体会」の各部会で熟議された内容を基に、「第1回南関町地域学校協働活動(学校応援団)運営委員会」の部会でも協議を深めてもらいました。今後も、課題をあげるだけでなく課題解決となるための協議や取組が実働となるよう、**地域・行政・学校・保護者・子どもの5者連携・協働**により具体的な取組がさらに展開され、南関町の発展と子どもたちの育成が充実したものになることを目指します。

令和2年度第1回南関町地域学校協働活動運営委員会の内容についてのお知らせ

委員長（谷口教育長）あいさつ

学校再開の6月から7月の期間は、新型コロナウイルス感染症対策の消毒作業に大変お世話になりました。

学校は8月から夏休みに入り、それも8月23日までと短縮し、24日から前期後半が始まりました。消毒作業は、9月からスクールサポート事業により対応することになりました。

10月13日から後期に入りました。授業時数の確保については、お陰様で行事の精選や夏休みの短縮で、例年通りの教育課程実施の目途がたちました。

そうは言いまでも、本年度の子どもたちは、長期間の臨時休校や様々な学校行事ができないなど、不安やストレスを溜めたり、行事を通した学びができていない状況に変わりはありません。

こういう状況だからこそ、後期の残り半年は、子どもたちの様々な学びを通年レベルに引き上げる取組が大切になってくると考えています。

どうぞ今後の教育活動の充実に、お集まりの皆様方のお知恵やお力添えをよろしくお願いします。



米澤CSディレクターから除草と

学力向上・心づくり・体づくり・環境充実の四つの部会設置について



第1回南関町地域学校協働活動運営委員会と 第1回南関町地域学校協働活動運営委員会の 各部会で協議された内容をまとめてみました



①学力向上部

南関町教育委員会として取り組んでもらいたい内容

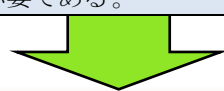
	コロナ対策	日常的な活動
学力向上部	●児童生徒一人一人が使用可能となるタブレットの操作能力の向上	●「勉強の名人(学習の達人)」や「家庭学習の手引き」の定着 ●育ちのもののさしの定着 ●教育機器の整備や活用支援 ●地域教育力の活用 ○放課後・休業日の学習支援 ○学校図書館支援 ○校外学習見守り ○稲作体験等の支援 ○陶芸教室の実施

第1回南関町学校運営協議会全体



記録用紙：(学力向上)部 【目標:主体的に学ぶことができる子どもの育成】

コロナ対策 (学 校)	- 子どもたちが主体的に学ぶための授業改善 - 効果的な授業でのI C T 機器(特にタブレット 端末)活用の仕方を探る。(教職員) - I C T 機器の使用にあたっては、学校教育専門指導員やI C T 支援員の支援をいただきながら効果的な活用方法を模索する。 - 公開授業や授業参観等でI C T 機器を用いた授業を積極的に行う。 - 大切に機器を扱ってほしい。 - G C Aスクール構想の具現化(通信環境の整備) ▲タブレットを使った授業等を実践してみないことには進まない。
コロナ対策 (家庭・地域)	- 子どもたちが主体的に学ぶことができるための工夫や生活改善が必要である。 - 学校運営協議会で各学校の授業参観をしてその効果や課題を把握し、人材の派遣等を地域学校協働活動に求める。 - タブレット 端末を子供1人に1台与えるならば、機器を大切に扱うことや情報モラルの指導は家庭でも行っていく。
日常的な活動 (学 校) 連携・協働	- 育ちのもののさしや家庭学習の手引きの定着 「自学」のやり方についての指導の工夫が必要である。 - 中学1年生の自学の取り組みが、数年前に比べスムーズに行えている。小中連携の成果といえる。 - 南関一小で取り組んでいる「10分間自学」から、学びに向かう力・振り返る力が必要だと感じる。 - 小学校の自学ノートを見ると、「自分のための学習になっていない」という感が否めない。 - 子どもたちが主体的に学ぶことができるための指導が必要である。 ◎家庭学習においても、子どもが主体的に学んでいけるよう9年間を見通した指導・支援を行っていかねばならない。
日常的な活動 (家庭・地域) 連携・協働	- 育ちのもののさしや家庭学習の手引きの定着 「自学」のやり方に課題がある。 - 自学の量については、児童生徒の主体性に任せてよいのではないかと。 - 子どもたちが主体的に学ぶことができるための工夫や生活改善が必要である。



第1回南関町地域学校協働活動運営委員会

- ◎ICT機器を用いた授業改善について、教師もスキルを身に着ける必要がある。
- ◎児童・生徒がタブレットを家に持ち帰ることもあり得るため活用能力を高める。
 - *家庭とともに進めていくためには、まず、保護者に関心を持ってもらうことが必要ではないか
 - 保護者が知りたいこと
 - ・なぜICT活用を目指しているのか？

答未来社会の担い手に必要な力(主体性や協働性・情報活用能力等)を育成するため
 - ・現在、授業でどのように活用されているか？

答資料の掲示や動画の使用、個別に操作し思考・判断・表現の交流
 - ・情報モラルを家庭でどの程度、どのように、教えていくか？

答学校ではネット利用や書き込み等の危険を訴え指導中 家庭でも同じ視点での取組をお願いしたい。
 - ・どんな教育アプリがあるのか？

答Microsoft365(ward excel,powerpoint)、小学校では現在はキューブきつず(3年以上は新年度から)授業支援ソフト skymenu (この上で「発表ノート」の活用を推奨)などがあります。

②心づくり部

南関町教育委員会として取り組んでもらいたい内容

心 づ く り 部	●新型コロナウイルス感染症対策としての「新しい生活様式」に努める態度及び実践力の育成 ●心身へのストレスの解消と生活習慣の安定	●育ちのもののさしの定着 ○いじめ不登校対策支援 ○体験活動やキャリア教育の支援 ○地域の歴史 ○挨拶運動	●町内・地域行事への参加 ○読み聞かせ ○郷土を愛する心 ○地域理解と地域への貢献 ○伝統芸能保存活動等
-----------------------	--	---	--

第1回南関町学校運営協議会全体会

記録用紙: (心づくり)部 【目標:望ましい人間関係と郷土愛の醸成】

コロナ対策 (学 校)	1 プールが始まったことにより、密を避けるため、どのような対策をとった方がいいのか、5、6年を中心に考える機会を与えた。(一小) 2 マスク着用・消毒・手洗いなど基本的なことを実施している。熱中症対策もあり、登下校のマスクは強制していない。また、プールの中で使用した物に対しての消毒や、更衣室での密集を防ぐ対策など、状況に応じて取り組んでいる。(中学校)
コロナ対策 (家庭・地域)	1 外出時の対策について ・不要不急の外出を控え、外出時は必ずマスク着用を徹底している。大牟田市ではマスク徹底している方がほとんどであるが、山鹿市ではマスク着用している方が少ない。親の考え、地域で意識の違いがある。 ・大型ショッピング店には行かず、なるべく室内よりも外で遊ぶように心がけている。 ・ならし登校時には緊迫していたが、最近は気が緩んできているように思える。 ・子どもの方が学校からの啓発により、いろんな対策を知っている。親に対してももっと町からの啓発活動が必要である。 2 福祉体験学習等について ・夏休みひまわり教室など例年開催しているイベントも中止となっている。福祉体験学習も現在控えている状況であるため、障がい者、高齢者の方へのかかわり方を別の形でつないだり、学習する機会をつくっていく必要がある。(社協)
日常的な活動 (学校・家庭・地域) 連携・協働	1 挨拶について ・大人から積極的に声かけするようにしている。中には気持ちの良い挨拶をしてくれる子どももいるが、子ども(特に中学生)から自発的に挨拶する子どもは全体の2割ぐらい。 ・スマホやゲームなどメディアの環境でなかなか睡眠時間が短く、朝から元気が見られない子どもが多い。 2 自己表現力について ・挨拶ができないことにより、自分の意思を伝えることができない子どもが多い。自己表現力を養うためには、大人が待つ姿勢をとり、丁寧に向き合っていくことが大切である。 ・自分の意見や感想を言える子どもは日頃からグループワークなどで培っているようなので、自分の意見を伝えることができるような日頃からの工夫、経験が重要である。 3 地域行事について ・地域の祭りや行事に大人も子どもと一緒に出席して、地域を知る機会をつくる。 4 今後について ・ゴミ出しカレンダーのように「目指す南関町の子ども像」「育ちのもののさし」を家庭でも見える場所に貼ってもらえるよう、もっと周知していく必要がある。 ・例えば、「笑顔で挨拶すること」など、目標を一つに絞って話し合う。学校ではどうか、地域ではどうか、今後もっと議論を深めていく必要がある。

第1回南関町地域学校協働活動運営委員会

○福祉体験学習の継続について

今年度、まったくできなかった福祉体験学習 四小の4年生より依頼があった。

視覚障害、認知症、高齢化疑似体験などしっかり新型コロナウイルス感染症の対策を考えて実施する必要がある。介助体験の際、子ども同士の接触、距離が近くなるためマスクは必ず着用する。また、説明の際はフェイスシールドを着用することを心掛ける。新しい生活スタイルを取り入れたうえで、介助も感染症に対するプログラムをしっかりと考えていかなければならない。

○挨拶について

元気な挨拶ができるためには生活習慣の見直しが必要である。地域の方より「挨拶ができない」「声が小さい」との声が上がっているが、なにも子どもから挨拶しなければならないわけではない。子どもが消極的ななら、「大人から挨拶しましょう!!」という意識を保護者、地域の方にも持ってもらいたい。町全体で「日本一のあいさつのできる町にしよう!!」という運動をやってみるのもいいと思う。学校任せではなく、子どもたちを地域で育てるという意識づけを行いたい。

③ 体づくり部

南関町教育委員会として取り組んでもらいたい内容

体 づ く り 部	●新型コロナウイルス感染症への感染抵抗力をつける ●望ましい食習慣の育成	●育ちのもののさしの定着 ●登下校見守り ●地域避難訓練 ○スクールガード ○遊具整備 ○基本的生活習慣の育成 ○食に関する指導 ○中学校の部活動支援 ○地域と一体になった運動会の実施 (本年度は半日実施のため地域の招待なし)
-----------------------	---	---

南関町学校運営協議会全体会

記録用紙:(体づくり)部 目標:望ましい食事と運動の習慣化

コロナ対策 (学 校) コロナ対策 (家庭・地域)	1 望ましい食習慣(生活習慣) ・小中学生の8割は朝食をとっているが、菓子パン程度の朝食となっている児童生徒もいる。菓子パンだけでは体づくりに向かない。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、健康観察チェックシートを児童生徒に配布して学校でも確認している。 ・学校や教育委員会で朝食週間を設定し、書面や防災無線・安心安全メール等で望ましい食習慣についての広報活動を行う。書類等の作成は、トッパ隊にお世話になってはどうか。 ・学校での子ども様子を見ているが、同じ子どもでも朝食を食べたときと食べていないときでは、明らかに集中力に差がある。
日常的な活動 (学 校) 連携・協働 日常的な活動 (家庭・地域) 連携・協働	2 望ましい運動の習慣化 ・体脂肪がやや高い子どもが増加しているので、体脂肪を下げる取り組みが必要である。 ・学校でラジオ体操を実施してみてもどうか。 ・「A-lifなんかん」や大学と連携して、体力向上推進コンソーシアムに取り組んでいる。体育サポーターの派遣もあり、水泳やマット・鉄棒等の指導支援も実施していただいている。 ・地域でのニュースポーツやなんかんっ子クラブにも取り組んでいる。

南関町地域学校協働活動運営委員会

○リクエスト給食の実施について

目的:子どもたち自身に給食のメニューを考える機会を与えることで、食に対して興味を持ち、自らで栄養バランスを少しでも考えられるようにする。

○運動の習慣化について

- ・運動の習慣をつけるためには、生活の中で定期的に運動をする機会を持つようにする。
- ・徒歩通学や自転車通学を行うことでも体力は付いてくる。

④環境充実部

南関町教育委員会として取り組んでもらいたい内容

環境 充 実 部	●児童生徒等の下校後の消毒	○学習環境の整備・充実
	●今後のコロナの状況に応じた児童生徒の見守り等の充実	○掃除用具入れや靴箱・踏板等の整備
	○タブレットを使用するための環境整備(町)	○学校花壇・畑の整備
		●除草や樹木の剪定等の環境美化
		●通学路点検

南関町学校運営協議会全体会

記録用紙:(環境充実)部 目標:学ぶ意欲のわく学校づくり

コロナ対策 (学 校)	1 下校後の消毒 ・二小:教職員による消毒活動を行っている。7/13~21は保護者の協力をいただいた。 ・三小:保護者や地域の方々の協力により、夕方の消毒活動を行っている。 ・四小:月曜と木曜は、保護者による消毒活動を実施している。 ・中学校:地域の方々の協力により、消毒活動が実施できている。
コロナ対策 (家庭・地域)	1 下校後の消毒 ・婦人会として消毒活動を実施しており、充分とはいえないが協力しているつもりである。しかし、地域の方々の協力にも限界があるので、なるべく保護者の協力が必要ではないかと感じた。(自分の子どもは自分が守るという意識をもっと持ってほしい。) ・三小には、婦人会として週2回出向いて消毒活動を行っている。 ・ボランティア協力から期限がないので高齢者であるため負担となっている。
日常的な活動 (学 校) 連携・協働	1 除草や樹木の剪定等 ・二小:学校や通学路の除草作業等を町で予算化できないのか? ・職員と地域の方々と協力して除草作業を行っている。 2 登下校の見守り等の充実 ・二小:保護者での見守りを実施している。 ・三小:週3回の防犯パトロールと週1回の保護者による朝の街頭指導を行っている。 ・中学校:保護者で朝夕の街頭指導を行っている。 ・職員も定期的朝の交通指導や毎日の下校指導を行っている。
日常的な活動 (家庭・地域) 連携・協働	1 除草や樹木の剪定等 ・二小:地域の方々と協力をいただければと思う。 ・三小:自分が気づいたときにボランティアとして行っている。 地域の方が学校にいるときには誰に言えばよいか分からない。 作業時間についても子どもがいない時間帯に行っている。 ・保険の適用についても詳しい説明がほしい。 2 見守り等の充実 ・大雨や災害等があったので、適宜通学路を各学校で確認してほしい。また、地域からも情報提供をいただくようにした方がよいと思う。 ・登校班の人数等の把握もしてほしい。

南関町地域学校協働活動運営委員会

- 新型コロナウイルス感染症対策のための消毒作業について
 - ・各学校のPTAや婦人会の皆様方のご協力ありがとうございました。
 - ・9月からは県のスクールサポート事業としてスタッフの皆様にお世話になっています。
- 除草作業・樹木の選定について
 - ・できる保護者や地域の方がおられるから整備ができています。
 - ・PTA役員や・OB・OGに呼びかける。(除草と資源回収の2回のみ)
 - ・業者への依頼ができないか?
- 登下校時の見守り
 - ・PTAにお世話になっている。
 - ・災害時の通学路の確認のため教職員も校区を見廻っているが、地域ごとの連絡体制があれば対応が早くなる。

熊本県統括コーディネーターの山平先生からの感想

- 玉名・阿蘇の中でも町でこれだけリードした取り組みをしている地域は少ない。
- 災害等もあり絆^{きずな}や繋^{つな}がりを改めて認識したが、手を繋ぎあって何かをやっていくことが大切である。手を繋ぐ相手は、学校・家庭・地域・子ども・行政の5者であり、目標を立てて5者で取り組んでいくことが大切である。
- 話し合いで終わらず実働が大切であり、いつから誰が責任をもってやるのかを決めてほしい。5者で実働するなかで心が繋がる。

お世話になっている消毒活動



南 関 町 で の

コミュニティ・スクール
(学校運営協議会)

と

地域学校協働活動 の

連携・協働

一体的推進

どうぞよろしくお願い申し上げます

担当者 生涯学習係

C S コーディネーター

統括地域学校協働活動推進員

坂本 凌

米澤 正志

伊藤 麻理

「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- ☐ 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
 - ☐ 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
 - ☐ 外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏場は、熱中症に十分注意する。
 - ☐ 家に帰ったらまず手や顔を洗う。
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
 - ☐ 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。
- ※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- ☐ 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- ☐ 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- ☐ 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的な生活様式

- ☐ まめに手洗い・手指消毒 ☐ 咳エチケットの徹底
- ☐ こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に） ☐ 身体的距離の確保
- ☐ 「3密」の回避（密集、密接、密閉）
- ☐ 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- ☐ 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- ☐ 通販も利用
- ☐ 1人または少人数ですいた時間に
- ☐ 電子決済の利用
- ☐ 計画をたてて素早く済ます
- ☐ サンプルなど展示品への接触は控えめに
- ☐ レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

- ☐ 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- ☐ 筋トレやヨガは、十分に人との間隔を
もしくは自宅で動画を活用
- ☐ ジョギングは少人数で
- ☐ すれ違うときは距離をとるマナー
- ☐ 予約制を利用してゆったりと
- ☐ 狭い部屋での長居は無用
- ☐ 歌や応援は、十分な距離かオンライン

公共交通機関の利用

- ☐ 会話は控えめに
- ☐ 混んでいる時間帯は避けて
- ☐ 徒歩や自転車利用も併用する

食事

- ☐ 持ち帰りや出前、デリバリーも
- ☐ 屋外空間で気持ちよく
- ☐ 大皿は避けて、料理は個々に
- ☐ 対面ではなく横並びで座ろう
- ☐ 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- ☐ お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

イベント等への参加

- ☐ 接触確認アプリの活用を
- ☐ 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

(4) 働き方の新しいスタイル

- ☐ テレワークやローテーション勤務 ☐ 時差通勤でゆったりと ☐ オフィスはひろびろと
- ☐ 会議はオンライン ☐ 対面での打合せは換気とマスク

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成